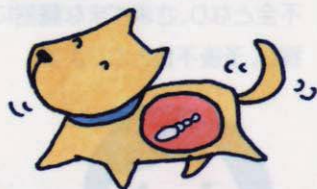


エキノコックス症って どういう病気？

ヒトに寄生すると怖い病気

エキノコックス (*Echinococcus*) はサナダムシ (条虫) の仲間で、多包条虫ともよばれます。本来イヌやキツネとネズミ類の間で伝播する寄生虫ですが、ヒトへ感染すると、重篤な疾病を引き起こします。エキノコックスの幼虫はヒトや野ネズミの肝臓に寄生し、強い病原性を発揮します。成虫は野ネズミを捕食したイヌやキツネなどの小腸内に寄生し、ほとんど症状は示しません。

エキノコックス症は感染症法で指定されており、医師も獣医師も発見した場合、届け出の義務があります。



イヌは感染していても元気にみえます

国内では北海道で患者が増加

世界におけるエキノコックス症の患者数は推定10万～30万人といわれています。国内でも、北海道を中心に毎年患者数が増加しています。これまで、主にキタキツネと野ネズミの間で伝播していたエキノコックスですが、最近、室内犬が感染していた例も報告されました。旅行でイヌを連れて北海道に行くヒトが増えていることから、感染地域はさらに南下する可能性があります。



エキノコックス症を予防するために

発生地域 (北海道のみ：2004年末現在)

- ヒトの生活圏にキツネを近づけない (キツネのエサになるようなものを家の周りに置かない)
- キツネ・野良犬・猫に触らない
- ペットに触ったら手を洗う
- 井戸水・沢水を口にしない
- 管理されていない生野菜や山野草を食べない
- ヒトは定期的に検査を受ける (特に森林や畑で作業する人)
- イヌは野ネズミとの接触を断つために、放し飼いにしない
- イヌの散歩の時には、イヌが野ネズミを捕食しないように気をつける
- イヌの定期的な糞便検査や駆虫を行う
- 転出者のイヌは、糞便検査、シャンプー、駆虫を行う

その他の地域

- 過去に発生地域にいたヒト、または発生地域由来のイヌを飼った経験があるヒトは、病院で検査を受ける
- 発生地域にイヌを連れて旅行したら、イヌの糞便検査、シャンプー、駆虫を行う
- 発生地域に隣接する地域では、イヌの定期的な糞便検査を行う



2005年 日本小動物獣医師会
人獣共通感染症委員会編

人と動物の共通感染症シリーズ

Vol.2

エキノコックス症

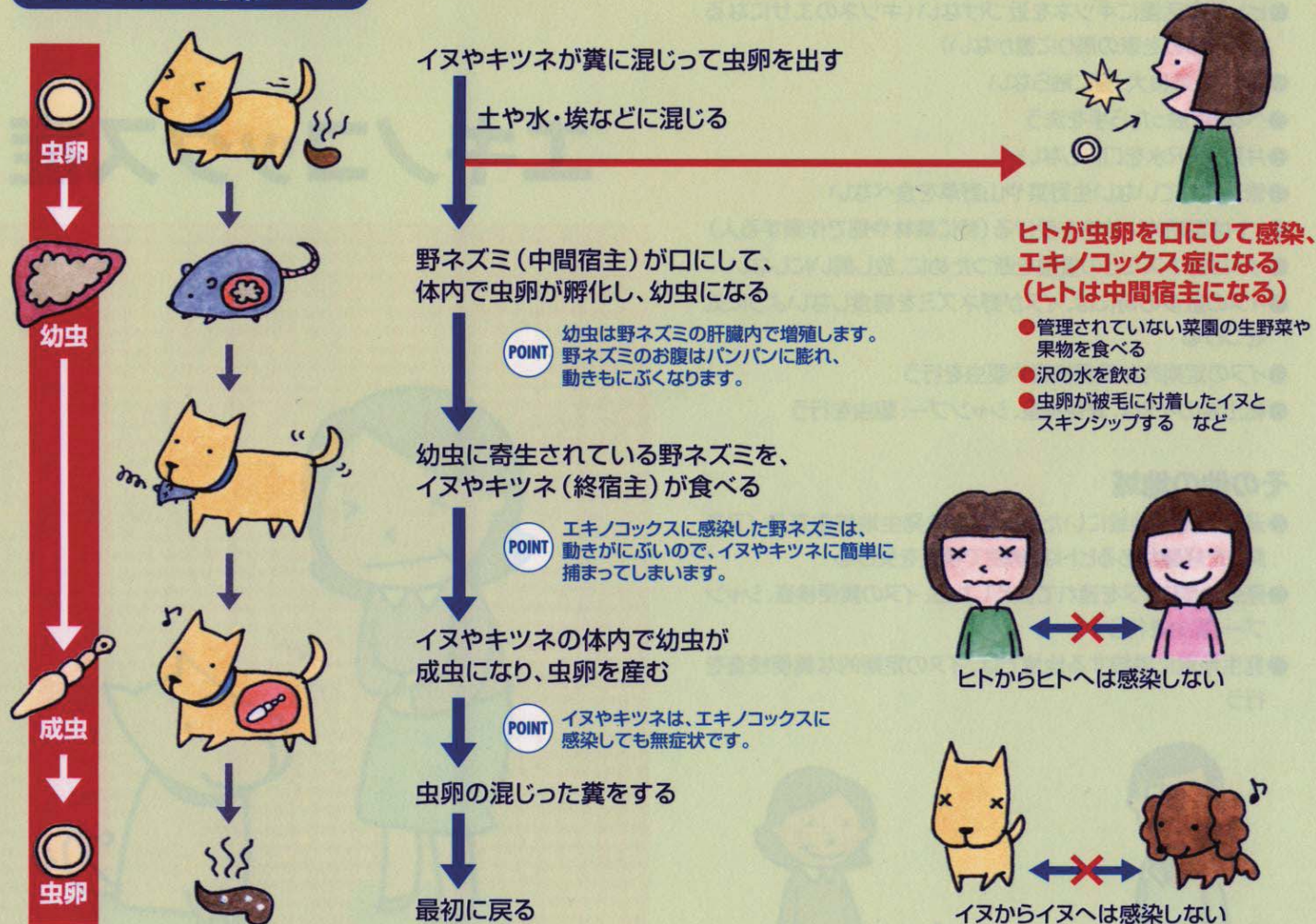


日本小動物獣医師会

エキノコックスは、どうやってイヌやキツネに感染するのでしょうか？

エキノコックスの発育段階は虫卵、幼虫、成虫の三つの段階があります。

エキノコックスの感染サイクル



イヌの治療と予防

発生地域では野ネズミを捕食させないことが予防として重要です。捕食する可能性がある場合は定期的な駆虫が必要と考えられます。また、感染しているイヌの治療も可能です。動物病院に相談してください。（人の治療は難しい）

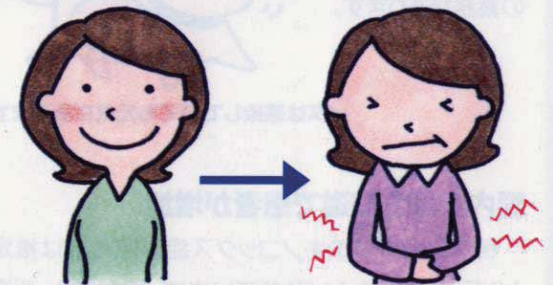


ヒトに感染するとどうなるの？

症状

ヒトへの感染はキツネやイヌなどから排泄された糞の中の虫卵に汚染された水、食べ物、埃などを口から摂取した時に起こります。エキノコックス病巣の拡大は極めてゆっくりで、初期症状が現れるまで、成人では通常10年以上かかります。（子供は経過が早く、5年ほどで症状がでると言われています。）放置した場合の致死率は90%以上とされています。

長い間無症状の時期を経過すると、病気の進行につれて、エキノコックスの病巣が大きくなり周囲の肝臓の機能が悪くなります。さらに進行すると肝機能不全となり、さまざまな臓器にもエキノコックスが転移し、予後不良となります。



長い間無症状の時期が続きます

治療

現在、エキノコックスの幼虫に有効な治療薬はありません。最も有効な治療法は、外科手術による病変部の摘出です。

早期診断された場合の術後の予後はよいのですが、診断が遅れると術後の治癒率は低くなります。

